25　次の文章を読んで、後の問に答えよ。但し設問の関係で送り仮名を省いた部分がある。

〈名古屋大〉二〇二三年度出題

　王　文　正　太　尉　局　量　寛　、三 　見二 　一。飲　　  
下 二 精　一 者上、　レ 　而　已。１家　人　レ 二 　一。二 　埃　一 二 一。公　　レ 　而　已。二 　　　一レ レ 。、我　　レ レ 。一　日　　二 　一。公　  
レ 　、吾　今　日　不レ レ 、レ レ 。

　　子　弟　二 於　一 、２庖　肉　為二 　　所一レ 私、レ 　不レ 、　レ 。公　、汝　輩　 レ ａ幾　。、一　。今　　二 半　一 、　半　為二 饔　人　所一レ 。公　、二 一　一 レ 得レ 　。、二 一　一 　 。、　後　 二 一　斤　一 可　。 ３レ 二 　一 皆　レ 。

　　宅　門　、主　者　レ 　レ 。ｂ暫　二 廊　廡　一 二 一　一 　出　。公　二 側　一、門　、レ 　俯　　而　、　  
不レ 。門　、ｃ復　二 正　一、　不レ 。

二 控　馬　卒一、歳　　レ 。公　、汝　レ 　幾　。、五　年　。公　、吾　レ レ レ 汝。　、復　　 、　　某　人　。レ 　　レ 。４　　レ 　レ 、　レ 、三 　視二 一。レ 二 　一、　　也。

（沈括『夢渓筆談』による）

【注】　○王文正―王旦。字は子明、文正は。北宋真宗初期の宰相。太尉とあるのは死後に贈られた称号。

○局量―度量。

○埃墨―スス。

○庖肉―台所にある肉。

○饔人―料理人。

○一斤―約六四○グラム。

○主者―責任者。ここでは、門の修理をする大工の棟梁を指す。

○廊廡―邸宅の東西にある細長い屋根付きの建物。

○拠鞍―馬の鞍によりかかる。

○俯伏―ひれ伏す。

○控馬卒―馬の口取り。馬の口につけた縄を取ってひく人。

○歳満―年季が明ける。奉公の年限が満了すること。

問１　波線部ａ「幾何」ｂ「暫」ｃ「復」の読みを、それぞれひらがなで記せ。

問２　傍線部１「家人欲レ試二其量一」について、「其」が何を指し示すかを明示した上で現代語訳し、具体的に何をしたのか説明せよ。

問３　傍線部２「庖肉為二饔人所一レ私」を書き下して、現代語訳せよ。

問４　傍線部３「不レ発二人過一」を現代語訳せよ。

問５　傍線部４「乃是逐レ日控レ馬、但見レ背、未三嘗視二其面一。因レ去見㆓其背一、方省也」を「其」が何を指し示すかを明示した上で現代語訳せよ。

◎問６　王文正は、どのような人物であるのか。本文に即した具体的な事例を交えながら、一五〇字以内で述べよ（句読点も字数に含める）。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝いくばく（ぞ）（と）　　ｂ＝しばらく　　ｃ＝また

問２　現代語訳＝Ａ家の者はＢ王文正のＣ度量を試そうとした。

Ａ＝２

Ｂ＝４〔「王文正」は「王旦」も可。〕

Ｃ＝４〔「欲」を「～したいと思った・～（し）ようとした」などと訳していなければ不可。〕

　　　説明＝Ａ王文正の食べるＢスープや飯に少しのＣススを入れた。

Ａ＝２〔「王文正」は「王旦」も可。〕

Ｂ＝４〔「スープ」は「汁物」や「」でも可。〕

Ｃ＝４〔「ススを混ぜた」など同内容可。〕

問３　書き下し文＝庖肉饔人の私する所と為り

　　　現代語訳＝Ａ台所にある肉がＢ料理人にＣ私的に流用されていて

受身の形になっていなければ全体０。

Ａ＝２／Ｂ＝２

Ｃ＝６〔「流用されて」は「隠されて」なども可。〕

問４　Ａ王文正がＢ人の過失をＣ明るみに出さなかったことは

Ａ＝２〔「王文正」は「王旦」も可。〕

Ｂ＝４〔「過失」は「過ち」など同内容可。〕

Ｃ＝４〔「明るみに出さなかった」は「暴かなかった」「摘発しなかった」など同内容可。〕

問５　ＡなんとこれはＢ馬の口取りは毎日馬を引いていたが、王文正はただ馬の口取りの背中だけを見て、いまだかつて馬の口取りの顔を見たことがなかった。Ｃ立ち去る時になって馬の口取りの背中を見て、まさに気づいたのである。

Ａ＝２〔「なんと」は「まさに」など同内容可。〕

Ｂ＝４／Ｃ＝４〔Ｂ・Ｃともに同内容可。〕

問６　王文正は、Ａ食事にススを入れられても平然として怒らず、Ｂ料理人が肉を私的に流用しているとの訴えを肉の配分を増やして丸く収め料理人をとがめず、Ｃ門が修理中の時は通行が不自由でも不問に付し、Ｄ退職する馬の口取りの顔を覚えていなくても背中を見て思い出し呼び戻して手厚く贈り物をするなど、Ｅ度量の広い温厚な人物である。（150字）

Ａ＝２／Ｂ＝２／Ｃ＝２／Ｄ＝２〔それぞれのエピソードがまとめられていれば同内容可。〕

Ｅ＝２〔「度量が広い」ことに触れていなければ減点１。〕

【書き下し文】

　にして、だてのるをず。にならざるらば、だらはざるのみ。其の量をさんとす。しのを以てのにず。だをらふのみ。其のをて羹を食らはざるかをふ。はく、たまをばずと。其の飯をす。公をて曰はく、飯を喜ばず、をふべしと。

　其の公にへて曰はく、問３のするとり、肉を食らひてかず、ふ之をむるをと。公曰はく、ごとに肉をること問１ａぞと。曰はく、なり。但だ斤をて食らひ、其の半饔人のす所と為ると。公曰はく、一斤をくせば飽くをべけんやと。曰はく、一斤を尽くせばよりに飽くべしと。曰はく、の人ごとに一斤半を料ればなりと。其の人のをかざることにる。

　嘗てれ、をして之をたむ。問１ｂくにて一門をきて以てす。公門にり、門く、にりてしてぐるも、てはず。門りて、  
問１ｃた正門をくも、た問はず。

　有り、ちて公にす。公問ふ、汝をくこと幾ぞと。曰はく、と。公曰はく、吾汝有るをらずと。にり、たびして曰はく、汝はち人かと。にてく之にる。乃ちれをひて馬を控き、但だを見て、未だ嘗て其のをず。去るにりて其の背を見て、に省るなり。

【現代語訳】

　王文正太尉は度量が広く温厚で、いまだかつて彼が怒るのを見なかった。飲食するもので清潔ではないものがあれば、ただ食べないだけだった。問２家の者は彼の度量を試そうとした。少しのススを（肉の）スープの中に投入した。公（＝王文正）はただご飯を食べただけだった。それについてどうしてスープを食べないのかと尋ねた。（公は）言った、私は（今日は）たまたま肉を欲しくなかったと。ある日また彼のご飯にススをつけた。公はそれを見つめて言った、私は今日はご飯が欲しくない、粥を用意しなさいと。

　彼（＝公）のところの若い者たちが公に訴えて言うには、問３台所にある肉が料理人に私的に流用されていて、（自分たちは）肉を飽きるほど食べられない、どうかこれをなんとかしてくださいと。公が言った、おまえたちは一人あたり肉をどのくらいもらっているのかと。（答えて）言うには、一斤です。今はただ半斤だけもらって食べ、残りの半分は料理人に隠されていますと。公が言った、一斤まるまるあれば飽きるほど食べられるかと。（若い者が）言った、一斤まるまるあれば言うまでもなくきっと十分ですと。（公は）言った、この後、一人あたり一斤半もらえばよいと。問４彼の、人の過失を明るみに出さなかったことはみなこのようであった。

　かつて家の門が壊れ、大工の棟梁が屋根を撤去して門を新しくした。しばらく屋根付きの建物の下で門を一つ開けてそして出入りした。公が（その）側門にやって来て、門が低く、（そのため）鞍に寄りかかってひれ伏すようにして通り過ぎても、まったく問いたださなかった。門の工事が終わって、再び正門を行く時も、また問うことはなかった。

　馬の口取りがいて、年季が明けて公に別れの挨拶をした。公が尋ねた、おまえはどのくらい馬を引いていたかと。（答えて）言った、五年ですと。公が言った、私は（思い返してみたが）おまえがいたのに気がつかなかったと。（馬の口取りが）立ち去った後、（公は）もう一度呼び戻して言った、おまえはなんと誰それではないかと。そこで手厚く彼に贈り物をした。問５なんとこれは馬の口取りは毎日馬を引いていたが、（王文正は）ただ（馬の口取りの）背中だけを見て、いまだかつて彼の顔を見たことがなかった。立ち去る時になって彼の背中を見て、まさに気づいたのである。